

# アゲマキガイの中腸腺の構造

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:水産大学校
	公開日: 2024-10-11
	キーワード (Ja):
	キーワード (En): razor-shell; eulamellibranchia;
	corrosion resin-cast; digestive diverticula; duct; tubule
	作成者: 山元, 憲一, 半田, 岳志
	メールアドレス:
	所属: 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2011905
	This work is licensed under a Creative Commons

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



# アゲマキガイの中腸腺の構造

## 山元憲一†,半田岳志

## Structure of the digestive diverticula of the Razor-shell, Sinonovacula constricta (Mollusca : Bivalvia : Eulamellibranchia)

Ken-ichi Yamamoto<sup>†</sup>and Takeshi Handa

Abstract: The corrosion resin-casts and the tissue preparations of the digestive diverticula of the Razor-shell, *Sinonovacula constricta* were observed. The resin-casts were made of the prepolymerization methyl methacrylate (MercoxCL-2R) containing 10 % Mercox MA. The tissue preparations were stained with Azan. The digestive diverticula developed up to 1/4 of the circumference of stomach. The origins of the ducts opened at 2 embayments on the stomach. Internal wall of the duct was uniformly covered with the cilium from the origin to the apex. Each tubule extended at the end of the duct.

Key word : Razor-shell ; Eulamellibranchia ; Corrosion resin-cast ; Digestive diverticula ; Duct ; Tubule

#### 緒 言

二枚貝の中腸腺は、栄養吸収および老廃物の排泄に関与 していると言われている<sup>1,2)</sup>。このような中腸腺は、胃の 周囲に位置し<sup>3)</sup>、胃に開口した導管で連絡している<sup>4-7)</sup>。 中腸腺の導管と中腸腺細管の構造は組織像の観察から模式 的に図示されており<sup>7-9)</sup>、胃と導管の構造は、ゼラチンを 利用した鋳型からマガキ*Crassostrea gigas*で図示されてい る<sup>1)</sup>。しかし、胃と導管、導管と中腸腺細管の位置関係を 立体的に明らかにした例は見られない。

そこで,著者らは,腹足綱の5種類<sup>10-14)</sup>に続いて,二枚 貝綱のイガイ目(等糸鰓目)のムラサキイガイ*Mytilus galloprovincialis*<sup>15)</sup>,イガイ目で擬弁鰓型を示すリシケタイラ ギ*Atrina*(*Servatrina*)*lischkeana*<sup>16)</sup>,ウグイスガイ目で擬 弁鰓型を示すアコヤガイ*Pinctada fucata martensii*<sup>17)</sup>,カキ 目で擬弁鰓型を示すマガキ<sup>18)</sup>の中腸腺について,半重合 メチルメタクリレートを使って鋳型を作成し,切片標本の 観察および固定標本を切開した断面像の観察を行って,胃 と中腸腺の立体構造を明らかにしている。本研究では,二 枚貝綱真弁鰓類マルスダレガイ目のアゲマキガイ*Sinonova*- cula constrictaを用いて,前記と同様にして鋳型および切片 標本を作成し,固定標本を観察して中腸腺の立体構造およ び組織像を調べたので報告する。なお,分類は波部ら<sup>19)</sup> および奥谷<sup>20)</sup>に従った。

#### 材料および方法

実験には, 佐賀県有明水産研究所から入手した殻長82± 16mm (平均値±標準偏差) のもの13個体および殻高8± 1 mmのもの10個体のアゲマキガイを用いた。アゲマキガ イは, 入手後, 0.5µm以上の粒子を除去した海水を1 1/min注水した状態で5~10日間蓄養して実験に供した。 鋳型 鋳型の作成は, Handa and Yamamoto<sup>21)</sup> に準じて, 主剤 (MERCOX CL-2 R, 応研商事株式会社) 3 ml当り硬 化剤 (MERCOX MA, 応研商事株式会社) 3 ml当り硬 化剤 (MERCOX MA, 応研商事株式会社) 約0.1gを混入し たもの (以降, 樹脂と表す)を用いて, 次のようにして行っ た。まず, アゲマキガイを約0.4M/1の塩化マグネシウム 水溶液<sup>22)</sup> に,約20分間浸漬して左殻を取り除いた。口か ら食道へ濾過海水を満たしたポリエチレン細管 (外径約1 mm, 長さ20cm, Hibiki No.3)を約5 mm挿入し, プラス

2008年9月22日受付. Received September 22, 2008.

水産大学校生物生産学科(Department of Applied Aquabiology, National Fisheries University)

<sup>†</sup> 別刷り請求先 (corresponding author): yamagenk@fish-u.ac.jp

チック製の注射筒(5 ml, Top)を使って2分間に約1 ml の速さで総量約3 mlの樹脂を注入した。注入後,細管の 一端を炎であぶって封入し,海水中で樹脂を硬化させ,20% 水酸化ナトリウム水溶液に浸漬して肉質部を除去し,水洗 した。

**胃の断面像** 観察は, Davidson液 (エタノール:ホルマリン: 氷酢酸:蒸留水=66:44:23:67)<sup>23)</sup> で固定後, 安全 剃刀で胃の部分を中心に軟体部を切開して行った。

組織像 観察は、小さい方の10個体を用いて、山元ら<sup>24)</sup> と同様にしてDavidson液で固定した後、常法に従ってパラ フィン切片(10µm)を作成し、アザン染色して行った。

#### 結 果

中腸腺は、食道と腸に挟まれるようにして胃の周囲の約 1/4の部位に展開していた(Figs. 1-8)。腸は複雑な螺旋 構造を示していた(Figs. 4,5)。導管は、胃壁が大きく 湾入してEmbayment構造<sup>4-6)</sup>を示した2箇所からそれぞれ 複数本が出ていた(Figs. 3,5,9)。Embayment構造から 出た導管は枝分かれを繰り返して次第に細くなり(Figs. 2,5,6,9)、内面はそれらの末端から伸びている中腸腺 細管との境までアザン染色で赤く染まるFlagellated cellで 構成され、繊毛で覆われていた(Fig.10)。中腸腺細管は 導管の末端から房状をなして直接1本ずつ出ている様子が 確認された(Figs. 9,10)。その組織像は、導管と異なっ てアザン染色で青く染まる消化細胞(Digestive cell)で周 囲を囲まれ、陥入した部位(Crypt構造)には赤く染まっ た暗細胞(Darkly staining cell)が確認された(Fig.10)。

#### 考 察

Yonge<sup>1)</sup>は、原鰓類、糸鰓類、真弁鰓類の34種を調べて、 中腸腺はいずれも胃を囲むようにして存在していると報告 している。等糸鰓類(イガイ目)のタイラギ<sup>16)</sup>、擬弁鰓目 のアコヤガイ<sup>17)</sup>やカキ目のマガキ<sup>18)</sup>では、中腸腺は同様 に食道および胃の周囲に位置しているが、殻の会合部分に 面した噴門部から幽門部にかけての胃の外側には存在しな いことが報告されている。真弁鰓類のアゲマキガイでは、 中腸腺は胃の周囲に位置したが、タイラギ、アコヤガイや マガキと比較しても胃の周囲に展開している中腸腺の範囲 は著しく狭い(胃の周囲の約1/4)ことが明らかである。 Purchon<sup>4-6)</sup>は、中腸腺の導管が胃壁に開口している部 位を2つに分けており、1つは導管が直接胃壁に開口して いるところをOrifices, 胃壁の湾入したところに開口して いるところをEmbaymentsとしている。アゲマキガイは, アコヤガイ<sup>17)</sup> やその仲間である*Pinctada vulgaris*<sup>4)</sup> と同様 にEmbayments構造を示していた。Embayments構造の数は アコヤガイ<sup>17)</sup> やその仲間である*Pinctada vulgaris*<sup>4)</sup> では5 箇所あると報告されている。しかし, アゲマキガイではこ れらよりも数が少なく、2箇所からなっていた。

アゲマキガイの導管が胃から中腸腺細管へ進むに従って 枝分かれして次第に細くなる構造は、原鰓類のクルミガイ 科Nuculidae,等糸鰓類および真弁鰓類について図示され ている<sup>7)</sup>ものと同様である。しかし、等糸鰓類および真 弁鰓類では、導管は主導管(Main duct)と二次導管 (Secondary duct) とに分かれ、主導管は断面をみると繊 毛で覆われている部分と刷子縁で覆われている部分に分か れて構成され、二次導管は全体が刷子縁で覆われた構造と なっていると報告されている<sup>8)</sup>。等糸鰓類のムラサキイガ イやマガキでは、二次導管は周囲が刷子縁で覆われている と報告されている15.18)。しかし、真弁鰓類であるアゲマキ ガイでは、導管の末端は中腸腺細管との境までアザン染色 で赤く染まるFlagellated cellで構成され、内面には繊毛 が確認されたことから、アゲマキガイの導管は、周囲を刷 子縁で覆っているとされる二次導管と異なる構造を示すと 考えられる。

中腸腺細管は、糸鰓類である*Anadara subcrenataや Brachidontes senhousia*では導管の末端から出た後に、中腸 腺細管が枝分かれする型(Simple branching type I)を、 等糸鰓類や真弁鰓類では導管の末端に1つずつ独立して出 ている型(Simple branching type II)<sup>8)</sup>を示すとされてい る。アゲマキガイでも真弁鰓類の特徴である、type IIの様 相を示していた。

中腸腺細管の暗細胞は、繊毛を備えており、若い細胞で 将来栄養細胞になると推測されている<sup>1)</sup>。このような暗細 胞は、真弁鰓類ではCryptに存在していることが知られて いる<sup>25)</sup>。アゲマキガイでも中腸腺細管は真弁鰓類の特徴を 示し、暗細胞をCryptに備えている像が確認された。

#### 要 約

アゲマキガイの中腸腺の構造を鋳型および組織像から調べた。中腸腺は、食道と腸に挟まれるようにして胃の約1/4の範囲に展開していた。導管は、胃壁が大きく湾入した2箇所から出ていた。導管は先端まで一様で内壁が Flagellated cellからなり、繊毛で覆われていた。中腸腺細 管は導管の末端から1本ずつ独立して出ていた。

#### 文 献

- Yonge C M : Structure and physiology of the organs of feeding and digestion in Ostrea edulis. J Mar Biol Ass U K, 14, 295-386 (1926)
- 2) Mathers N F: The tracing of a natural algal food labelled with a carbon 14 isotope through the digestive tract of Ostrea edulis L. Proc malac Soc Lond, 40, 115-124 (1972)
- 3) Yonge C M : The digestive diverticula in the lamellibranchs. Trans Roy Soc Edinb, 54, 703-718 (1926)
- 4) Purchon R D: The stomach in the Filibranchia and Pseudolamellibranchia. Proc Zool Soc, London, 129, 27-60 (1957)
- Purchon R D : The stomach in the Eulamellibranchia; Stomach type IV. Proc Zool Soc, London, 131, 487-525 (1958)
- Purchon R D: The stomach in the Eulamellibranchia; Stomach type IV and V. Proc Zool Soc, London, 135, 431-489 (1960)
- 7) Owen G : Observations on the stomach and digestive diverticula of the lamellibranchia. II. The Nuculidae. *Quart J micr Sci*, 97, 541-567 (1955)
- 8) Owen G : Observations on the stomach and digestive diverticula of the lamellibranchia. I. The Anisomyaria and Eulamellibranchia. *Quart J micr Sci*, 97, 517-537 (1955)
- 9) Nakazima M : On the structure and function of the mid-gut gland of Mollusca with a general consideration of the feeding habits and systematic relation. Jpn J Zool, 11, 469-566 (1956)
- 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:クロアワビの中腸腺の構造.水大校研報,53(3),105-116 (2005)
- 11) 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:サザエの中腸腺の構

造. 水大校研報, 55(3), 71-89 (2007)

- 12) 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:マルタニシの中腸腺の構造.水大校研報,55(4),149-159 (2007)
- 13) 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:ツメタガイの中腸腺の構造.水大校研報,55(3),91-99 (2007)
- 14) 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:アカニシの中腸腺と唾液腺の構造.水大校研報,55(3),101-114 (2007)
- 15) 山元憲一・半田岳志:タイラギの中腸腺の構造.水大 校研報,57(1),71-80 (2008)
- 16) 山元憲一・半田岳志:ムラサキイガイの中腸腺の構
  造.水大校研報, 57(2), 71-80 (2008)
- 17)山元憲一,半田岳志,近藤昌和:アコヤガイの中腸腺の構造.水大校研報,52(1),31-43 (2004)
- 山元憲一・半田岳志・近藤昌和:マガキの中腸腺の鋳 型作成の試み.水大校研報,51(3),71-80 (2003)
- 19)波部忠重,浜谷 巌,奥谷香司:分類.波部忠重,奥 谷香司,西脇三郎(編),軟体動物概説(上巻).サイ エンティスト社(1994)
- 20)奥谷喬司:日本近海産貝類図鑑.奥谷喬司(編).東 海大学出版会(2000)
- 21) Handa T and Yamamoto K : Corrosion casting of the digestive diverticula of the pearl oyster, *Pinctada fuca-ta martensii* (Mollusca : Bivalvia). J Shell Res, 22(3), 777-779 (2003)
- 22) Namba K, Kobayashi M, Aida S, Uematsu K, Yoshida M, Kondo Y and Miyata Y : Persistent relaxation of the adductor muscle of oyster *Crassostrea gigas* induced by magnesium ion. *Fish Sci*, 61, 241-244 (1995))
- 23) Bell T A and Lightner D V : A handbook of normal Penaeid shrimp history. World aquaculture society, USA, pp 2.
- 24) 山元憲一,近藤昌和,半田岳志,林安章:アコヤガイの鰓換水に及ぼすホルマリンの影響.水産増殖,49(4),461-467 (2001)
- 25) Owen G : Lysosomes, peroxisomes and bivalves. Sci Prog, Oxf, 60, 299-318 (1972)











Fig. 3. Cutting view of the soft part of the Razor-shell. a : lateral view (right), b : lateral view (left), D : digestive diverticula, ST : stomach, GD : gonad, IN : intestine, OS : oesophagus, M : mouth, E 1 and E 2 : embayment, DD : duct, T : tubule. Bar in A= 1 cm, Bars in B and C= 1 mm.









Fig. 6 . Vertical section of the body of the Razor-shell. (b) was expanded the part of digestive organ in (a). IS: inspired siphon, ES: expired siphon, CT: ctenidium, AD: adductor muscle, MT: mantle, ST: stomach, LP: labial pulp, D: digestive diverticula, EM: embayment, IN: intestine, FT: foot, OS: oesophagus, M: mouth. Bars=1 mm.













